

令和8年(2026年)3月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2026年3月 数量 (トン)	2026年3月 平均単価 (円)	前年同月比 数 量	前年同月比 平均単価
1	野菜	大根	神奈川県・千葉県産中心の入荷でした。天候は良く数量は安定した。昨年は高単価であったため平均単価はかなり安く推移したが平均並みであった。	690	78	96%	50%
2		キャベツ	神奈川県産中心の入荷でした。数量は増加し、昨年は高単価であったため平均単価はかなり安く推移したが平均並みであった。	803	95	119%	50%
3		きゅうり	宮崎県・群馬県・埼玉県産中心の入荷でした。数量は前年並み、平均単価も前年並みでした。	237	395	100%	100%
4		ほうれん草	茨城県・群馬県産中心の入荷でした。数量はやや増加し、平均単価はやや安く推移しました。	75	467	110%	93%
5		馬鈴薯	月初めは産地の天候が悪く、当初は入荷が少なかったが、結果的には数量はかなり増加した。このため、平均単価は高く推移しました。	211	340	150%	112%
6	果実	その他柑橘	昨年度が不作であったため、また、出荷が遅れ3月に集中したため、数量は大幅に増加、平均単価はかなり安く推移しました。	449	341	181%	74%
7		りんご	入荷量が少なく数量はかなり減少しました。平均単価はやや安く推移しました。	105	455	71%	97%
8		いちご	入荷の中心であった関東産、九州産が端境期迎え数量はかなり減少しました。平均単価はやや高く推移しました。	134	1,438	77%	105%

【増減基準】

- ①並み、横ばい：(+-)0~2%
- ②やや増加(減少)：(+-)3~10%
- ③増加(減少)：(+-)11~20%
- ④かなり増加(減少)：(+-)21~50%
- ⑤大幅に増加(減少)：(+-)51%以上